

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成27年7月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

マネジメントを担う

島田 裕子

独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター
事務部企画課 診療情報管理士

診療情報管理士は英語で HIM: Health Information Manager と表記され、健康情報を管理しマネジメントすると訳されます。法規や制度の知識だけでなく精度の管理も求められます。人は自分への利益が得られなければ動きません。無意識に金銭的な利益だけでなく、発展的な向上が得られるかどうかを判断しながら日常を過ごしていると思います。マネジメントには人を動かす力が必要になる事も多くあります。

診療情報の大半は診療記録や電子化カルテで中央管理されています。その管理者として情報の発生源にお願い事をする際に、どのようなアプローチをすると効果的に調整できると思いますか？

診療情報管理士の多くが退院要約(サマリー)の作成を医師に促しています。退院要約が何故重要なのかも合わせて説明できているかが重要です。「規定や法律で決められています」といったような杓子定規な対応では、ただ書かされているだけの物にしかならず診療情報における財産には成り得ません。決まったフォームに一定のルールで情報があると活用の利便性が向上します。他者にも効率良く伝達することができます。集計や分析に利用する事ができます。あるべき姿を誰もが分かっているのですが、日常雑多に追われて疎かになってしまい、マネジメントをする立場である診療情報管理士も情報活用や説明を忘れてしまう事があります。面倒な事をやりたがらないのは極々普通の事なのだ。と意識を変えて考えてみると自分自身の役割も客観的に整理することができると思います。医療の現場で一定の仕事を担当している方々は専門的に卓越した方も多く、知識や経験の量に、まったくもって及ぶことなどできません。そういった場でのマネジメントの役割を担うために自分を知って認めることで、違う視点で活動することが大切になると思います。

どうアプローチすれば心を動かすことができるか。と、相手に応じて少しずつ変化をつけるように心がけています。実は、過去に結果的に相手のプライドを傷つけてしまい大失敗をした経験が何回かあります。自分も傷ついてしまうので回復には時間が必要になります。だからと言って怯んでいる暇はありません。何に関心が深いのかを出来るだけコミュニケーションを図りながら調整することを現場で学びました。施設全体の意識に変革をもたらすほど大きなマネジメントが必要な場合もありますが個々での対応と同様に、心を動かす工夫をすると成功の可能性が高くなります。問題点を並べるのではなく課題を挙げて具体的に提案をすると効果的です。解決策の多くは現場にある事に気づけると医療情報マネジメントに寄与する活動の一步に繋がると思います。診療情報管理士の役割は施設によって異なることもありますが、何かをマネジメントするという視点は同じです。医療現場の一員である診療情報管理士が多く成長できるような風土作りに貢献していきたいと思えます。

